

清掃活動を通して地域と繋がる取組

【千葉県立印旛特別支援学校さくら分校】

～取組のポイント～

コース実習の授業で身につけた清掃の知識や技能を活かし、近隣の施設や地域の清掃に取り組む活動である。普段とは異なる施設や地域で清掃を行い、授業で学んできたことを活かして活動することで更なる意欲向上、掃除好き生徒への育ちへとつなげた。

1. 実践の概要

(1) 対象生徒

特別支援学校高等部普通科職業コース（高等部1～3年）

(2) 教科・領域

・各教科等を合わせた指導

職業コース実習（メンテナンスサービスコース）（週30時限のうちの11時限）

(3) 目標

①清掃に関する知識・技能等の習得を図る。

②チームとして作業の流れを考えながら、その場に応じて働く力が身につくようにする。

③公共施設や企業と連携し、活動場所を広げていくことにより、活動計画を自分たちで考えるなど、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

(4) 学習計画

近隣施設清掃：年間を通して、月に1～2度実施

2. 実践の内容

(1) 取組までの経緯

さくら分校は、教育課程の中心にコース実習（各教科等を合わせた指導）を位置づけている。メンテナンスサービスコースでは、清掃活動を通して働く力を身につけることを目的としている。その中で培った知識や技術を活かし、近隣の施設の清掃活動を行っている。上記、メンテナンスサービスコースの目標の中でも、③に重点を置き、実際に現場に出向き、清掃することで主体性を育てている。

(2) 内容

月に1～2度、近隣の施設に出向き、清掃活動を行う。作業内容は、実施日毎に多少異なるが、スクイジーを使用した窓清掃や高圧洗浄機等の大型資機材を使用した清掃が多い。前回に行った清掃状況や施設の様子などから、次回どんな清掃をするかを決めたり、施設から依頼された場所を清掃したりと、状況に合わせて自分たちで考えて清掃を計画する。また、校外での活動、施設から依頼された作業であることを伝え、礼儀や身だしなみ、施設設備の扱い方等の基本的なことも必要であることを確認した。

3. 工夫点

(1) 事前・事後学習

コースのメンバーを4～5人の3チームに分け、チーム毎に清掃を計画し活動に取り組むようにした。初回は、清掃内容や場所、必要な道具等は教員主導で行った。2回目以降は、前回の清掃の進捗状況や依頼の内容、施設の様子などからチーム毎にどんな清掃をするか、どの道具が必要かを相談し、決めるようにした。

事後学習では、清掃の進捗状況をチーム毎に確認するようにした。また、必要な道具や不必要な道具、持参していれば良かった道具などを洗い出し、次回の清掃に向けて道具リストの作成などを行うようにした。

4. 実践の評価（成果と課題）

（1）成果

近隣施設での清掃活動では、時期によって清掃の内容も異なる。施設からの希望を受けた清掃内容をもとに、大まかな清掃計画を立てて取り組んだ。窓清掃や、除草作業、また床面の高圧洗浄等、様々な依頼をもとに、グループ内で自分たちの活動に必要な道具を考え、準備から当日の活動内容までを生徒が主体となって計画を進められるようにした。当日を迎えて、実際に清掃をすると、「こんな道具が必要だった」「あの場所は、こんな清掃ができるのではない



【近隣の施設清掃】

か」など様々な意見が出た。自分たちで責任をもって準備や数の調整を行った道具が現場でどう活用できたかを感じながら仕事を終えることができた。時間内に頼まれた仕事を終え、成功したことを考える場面もあれば、人の動きや道具の過不足により生じた問題についても考える場面もあった。

また、計画を立てたり、実行したりするだけでなく、地域の方に喜ばれることや、学習を積み重ねてできるようになった清掃技術に対する他者からの評価や感謝の言葉が、何より生徒一人一人の意欲の向上につながっている。

校内では、そうした達成感とともに振り返りの時間を設け、様々な意見を交わすうちに、指示された場所を清掃するだけでなく、清掃の中に多くの気付きを見出すことができるようになってきた。チーム内で繰り返し話し合うことにより、広い視点をもつことができたり、人に喜んでもらえることを自分たちの喜びにできたりした。現場を観察する力や、その場にある物で柔軟に対応する力、より効率よく、より適した清掃のあり方を考えるきっかけとなっている。

（2）課題・展望

清掃の計画は、自分たちで立てられるようになってきている。今後は、職員で行っている施設との連絡なども生徒の活動として進めていくことで、より主体的な活動になると考えられる。

今年度より、さくら分校が置かれる千葉県立佐倉南高等学校と共同で、最寄り駅の花壇を管理しているところである。また、駅では毎月定期的にクリーン活動が行われており、本校の活動内容を知っていただく機会として今後も積極的に活動していきたい。



【花壇の管理】

さくら分校のコース実習は、1年ごとに切り替わるため、専門的な技術に関してはそれぞれのコース実習で蓄積することになる。そのため、自分たちの活動を見直す体制は、すべてのコースで継続し、連携する力・自分の活動を振り返る力なども横断的に身につけられるようにさくら分校全体の展望としてあげていきたい。

5. その他（参考文献等）

- ・地域と共に進めるキャリア発達支援－職業学科3校合同研究実践事例集【ジアース教育新社】